

緊急リリース：長雨を記録した2017年8月～「暑くない夏」が景気に与える影響は

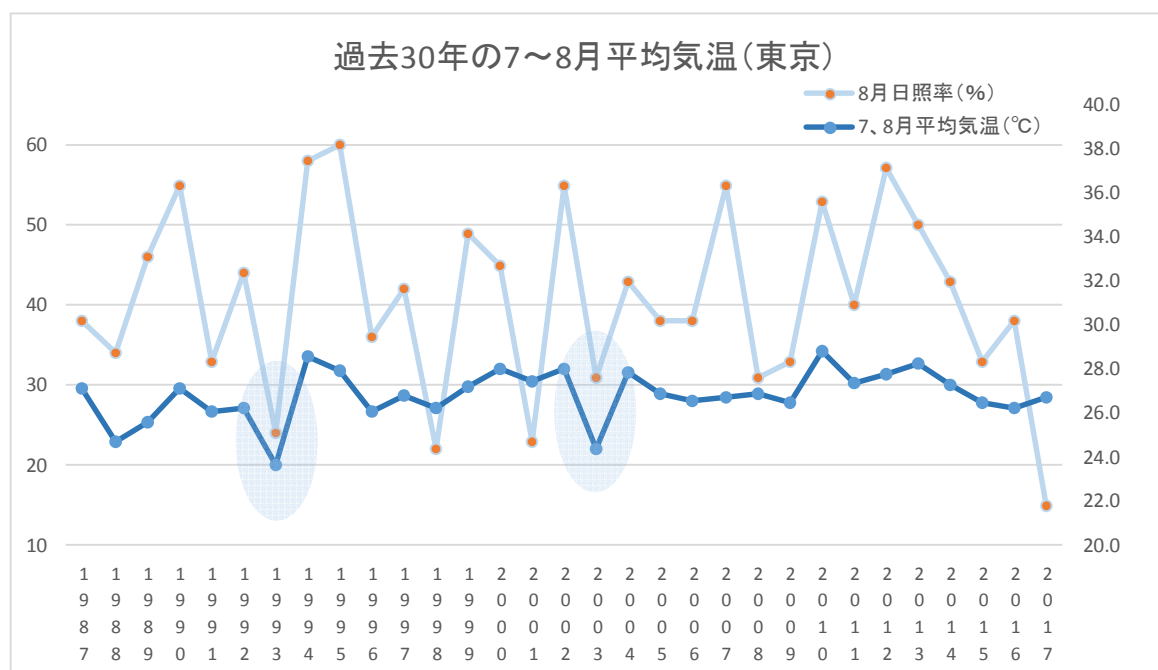
はじめに

東京都内で2017年8月1日から21日まで実に21日連続で降雨を記録。レジャー需要が盛り上がるお盆期間も関東地方では日照時間が短く、天候不順に見舞われた。

8月23日は「処暑」にもかかわらず、東京都内で9日以来、2週間ぶりの猛暑日となった。今後の天候は流動的であるものの、8月前半の天候不順が企業活動にどのような影響を及ぼすのか、過去の“冷夏”を振り返り探っていく。

1. 気候データ

過去の気候データを遡ると、過去30年間で7～8月の2カ月間の平均気温が最も低かったのは1993年(23.7℃)、次いで2003年(24.4℃)。また8月の日照率・日照時間ともに低水準で(93年日照率:24%、2003年日照率:31%)、この2年は一般的に“冷夏”だったといわれる。とりわけ93年は梅雨明けの日程も「時期が判明しなかった」として、統計数字が公表されている1951年以降で特定しなかった唯一の年で、秋以降は米不足から実質政府主導のもと「タイ米」が緊急輸入されるなど、産業界にも大きな影響を与えた。



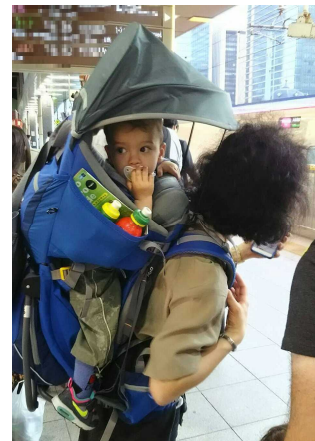
気象庁データより作成

2017年は8月23日までの数値

2. 93年の企業業績は

93年9月～94年8月に決算期を迎えた企業の業績を前年と比較したところ、夏物衣料が苦戦した影響か、「繊維・繊維製品・服飾品卸売業」の減収企業は構成比が59.3%と全業種（同47.6%）より11.7ポイント上回り、「繊維・繊維製品・服飾品小売業」は同54.1%と6.5ポイント上回った。またエアコンの売れ行きに関係した影響もあったためか、「家電・情報機器小売業」の減収企業構成比は52.7%と全体平均を5.1ポイント上回った。また業種を細分類別に見ると、「百貨店」の減収企業率が73.0%と高水準だったことが際立っていた。

「冷夏」だった93年は、バブル経済崩壊後のタイミングや円高局面だったこともあり、業績に与えた直接の因果関係は天候だけにあるとはいえないが、いずれも注目される値といえる。



激しい雨を見つめる海外からの旅行者（撮影：東京支社情報部）

3. 冷夏の影響を受けた倒産事例

倒産事例を見ても、アイスクリームなど冷菓や酒類を扱う「食品」をはじめ、「アパレル」「家電」関連企業があがった。いずれも厳しい経営不振にあったところ、冷夏による消費動向が計画どおりの販売につながらなかったためにさまざまな問題が表面化し、破綻につながった形だ。

岐阜市の紳士カジュアルウェア小売り（株）ハトヤは、繊維不況の折に過大な借入金を抱えていたなか、冷夏で売り上げが落ち込み、93年9月に岐阜地裁へ自己破産を申請した。

1993年、2003年の冷夏によって倒産に至った主な企業

TDB企業コード	商号	所在地	業種	倒産月	倒産態様
450144331	(株)ハトヤ	岐阜市	紳士服卸	1993年9月	破産
985032029	(株)イーグル電機商会	東京都品川区	家電製品卸	1993年11月	破産
410070350	(株)三四郎	静岡県西伊豆町	旅館経営	2003年9月	民事再生法
580264422	(株)マツヤデンキ	大阪市中央区	家電量販店	2003年9月	民事再生法
500045759	(株)藤三商会	京都市下京区	食料・飲料卸	2003年10月	民事再生法 →2004年2月破産
988163051	東京食品販売(株)	東京都八王子市	食料・飲料卸	2003年11月	破産
010424321	夢水工房(株)	札幌市豊平区	製氷	2003年11月	破産
100054944	(株)渡喜	仙台市宮城野区	酒類卸	2004年8月	破産

4. 企業の声

今年は関東甲信の梅雨明けが平年より2日早いこともあって7月の東京の平均気温は27.3℃と昨年(25.4℃)より1.9℃高く、日照率は2003年以降で最も高い43%を記録したことから、「冷夏」と呼ぶには農作物やその他の資材を待ちたいが、「キャンプ用品や海関連のレジャー用品の売り上げに影響が出ている」(スポーツ量販店)など、記録的な連続降雨の影響が今後、夏商材を扱う企業業績に影響が表れる懸念は否定できない。また「野菜の出荷が落ち込むことで産業資材が少なからず影響を受ける。どこの業界もおおむねそうかもしれないが、やはり『夏は暑い』に限

る」（資材系商社）というように、周辺産業への波及もゼロではないだろう。

なかには「今年は6月に台数が売れたので、8月の冷夏や長雨はそこまで影響がない」（電機メーカー）などと、7月までの猛暑で夏商戦の先取り感を読み込んだ企業もあるほか、「現時点ではまだ表面化していないが、稲作は長雨・冷夏で病気が流行する可能性が高いため、農薬の需要が増える可能性がある」（大手飼料商社）との声もあるなど、長雨によって旺盛になる需要もある。

もっとも「既に企画生産したものに関しては卸すだけなので影響がないが、長雨・冷夏で抱える在庫が増えれば、来年の春夏モノの受注への影響が心配される」（アパレル卸）という声のように、今回の天候不順が中長期的に企業業績に及ぼす可能性もある。8月単月の業績とともに、注目が必要だろう。

企業の声

資材	一般洋紙に特段影響は出ないものの、冷夏により野菜やビールの出荷が落ち込むことで段ボール等の産業資材が少なからず影響を受ける。 どこの業界もおおむねそうかもしれないが、当業界にとっても、やはり『夏は暑い』に限る（商社）
商業施設	屋内施設は、8月上旬までは好調だったものの、お盆に入って若干客足が鈍かった。売り上げも前年に比べ負け気味。「雨が降ったら屋内施設へ行こう」とは必ずしもならない印象（不動産） 屋外施設は、買い物だけでなく郊外でのレジャー的な側面もあることから、お盆の時期は盛況で長雨の影響は感じなかった。 雨も1日中降ったわけではないので、降ったタイミングで店内に入れればしのげるから（不動産） ホール客数は、気温というよりまず天気に左右される。お盆の客数は長雨の影響で少なかった印象だが、冷夏の影響は分からない（パチンコホール運営）
食品・飲食店	冷夏だとアイスクリームの売れ行きが下がる。8月の長雨が続き昨年8月よりも売れ行きは悪い見通し（菓子製造） 長雨の影響は当然ある。しかも降る、降らないがはっきりせず、降れば豪雨になるかもしれない、という天候が続いたのも痛かった。 また、朝の天気予報で「今日は早めに家に帰りましょう」などと言うのも影響があると思う（飲食店経営）
電機	通常、冷夏によって売れ行きが変わるのがエアコンだが、今年は6月に台数が売れたので、8月の冷夏や長雨はそこまで影響がない（電気機器製造）
衣料品	百貨店は夏モノが動くのが7月で、お盆明け以降は秋物立ち上げのタイミング。 そもそも、お盆の時期は東京から人がいなくなるので、百貨店における夏モノへの影響は限定的（小売り） 電車移動の多い都心では、急な雨で雨宿りとしてお店に入るケースもあった。商品と接する時間が長くなるので、その分購買に良い影響を及ぼす側面もあった（小売り）
農業系・肥料	現時点ではまだ表面化していないが、影響が出るとすれば「稲」。 長雨・冷夏で病気が流行しやすいので、それを防ぐための農薬の需要が増える。これからそういった動きが出てくる可能性はある（肥料商社）
スポーツ・アウトドア その他	サングラス・海関連商品・キャンプ用品の売れ行きが低調。特にキャンプ用品が苦戦している（スポーツ用品販売） 日中は“ちょい乗り”を含めて短い距離の客が増えたが、夜間は人が出ていないため、低調だった。 駅待ちしても終電後の客足が少ないと売り上げは減ってしまう。また、雨の日の生活に慣れてくるとタクシーを使わなくなるのでは（タクシー）

【内容に関する問い合わせ先】

（株）帝国データバンク 東京支社 情報部 下 麻奈美

TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。